



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**医学部医学科**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木1
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20132016000101	科目番号	20160001
授業科目名	●人間生物学		
編集担当教員	蒔田 直昌		
授業担当教員名(科目責任者)	蒔田 直昌		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	蒔田 直昌,松本 逸郎		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	1年・前期		
担当教員Eメールアドレス	makitan@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	生理学第一(分子生理学)		
担当教員TEL	819-7031		
担当教員オフィスアワー	(月)17:00~18:00		
授業のねらい	これから学ぶ医学を容易に受容できるようにするために、 (1)人間のミクロからマクロにいたる諸器官の構造とその生理機能、ライフサイクルおよび分子細胞レベルでの生命活動の基本的知識を学んで、人間という生命の全体像を大まかに俯瞰し、把握する。 (2)地球というBiosphere のなかで進化し、社会生活を営む人間は環境と調和して存在しなければならない事を理解する。		
授業方法(学習指導法)	医学部教員による講義・実習		
授業到達目標	1)人間という生命の全体像を俯瞰する。 2)医学がどのようなものか大まかにつかむ。 3)地球、環境、社会、健康、病気、心など幅広い分野で問題意識をもち、将来何をなすべきかを考える。 4)人体の構造と機能・代謝の各系を学び易くするとともに、各系がより高度の内容を教授できる。 5)科学及び医学英語になじませ、英語を読み、書き、聞いて話せるようになるための基礎を作る。 6)生物学で受験した人と受験しなかった人の生物学知識レベルを均一にする。		

講義は教科書の予習を前提として進める。	
回	内容
1	4月5日(木)1校時 【授業内容】科学的方法論 (1-18) 【担当講座等・教員】3解剖・小路
2	4月12日(木)1校時 【授業内容】循環 (91-104) 【担当講座等・教員】1生理・蒔田
3	4月19日(木)1校時 【授業内容】循環 (104-114) 【担当講座等・教員】循内科・前村
4	4月26日(木)1校時 【授業内容】血液 (115-132) 【担当講座等・教員】原研内科・宮崎
5	5月10日(木)1校時 【授業内容】血液 (115-132) 【担当講座等・教員】原研内科・宮崎
6	5月17日(木)1校時 【授業内容】消化 (169-195) 【担当講座等・教員】2外科・黒木
7	5月24日(木)1校時 【授業内容】消化 (169-195) 【担当講座等・教員】2外科・江口
8	5月31日(木)1校時 【授業内容】呼吸器系(196-216) 【担当講座等・教員】2内科・角川
9	6月7日(木)1校時 【授業内容】呼吸器系(196-216) 【担当講座等・教員】2内科・今村
10	6月14日(木)1校時 【授業内容】発生と発育(393-418) 【担当講座等・教員】産婦人科・三浦
11	6月21日(木)1校時 【授業内容】発生と発育(393-418) 【担当講座等・教員】産婦人科・三浦
12	6月28日(木)1校時 【授業内容】感覚器 (315-338) 【担当講座等・教員】耳鼻科・高橋
13	7月5日(木)1校時 【授業内容】感覚器 (315-338) 【担当講座等・教員】眼科・北岡
14	7月12日(木)1校時 【授業内容】神経系 (285-292) 【担当講座等・教員】1解剖・森
15	7月19日(木)1校時 【授業内容】性病 (385-392) 【担当講座等・教員】泌尿器科・井川
16	
授業内容	
キーワード	生物学・医学

教科書・教材・参考書	Sylvia S. Mader著のHuman Biology 12th Edition (McGraw-Hill Companies)を教科書とするので必ず購入すること。(生協医学部店で取り扱う)
成績評価の方法・基準等	カリキュラム作成と担当教官の人は人間生物学運営委員会(教官6名、代表蒔田直昌)が行う。 委員会は学生の講義評価を教官にフィードバックして講義内容の向上に努力する。 人間生物学の評価は各担当教官によって教科書の内容に従って作られた問題の中から委員会が選択して実施する筆答試験による。 試験・講義・実習の出席状況も考慮して、60点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	医学部1年次
本科目の位置づけ	医学部1年 前期の必修科目
学習・教育目標	授業到達目標と同じ
備考(URL)	<a href="http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/physlgy1/">http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/physlgy1/</a>
備考(準備学習等)	テキストによる予習復習を行なうこと



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**医学部医学科**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20132016000201	科目番号	20160002
授業科目名	●細胞生物学		
編集担当教員	永山 雄二		
授業担当教員名(科目責任者)	永山 雄二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	永山 雄二, 李 桃生, 吉浦 孝一郎		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	医学科1年生		
担当教員Eメールアドレス	nagayama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部・原研分子医学教室		
担当教員TEL	095-819-7173		
担当教員オフィスアワー	毎日、7:30-8:50		
授業のねらい	生物学や生命科学、ひいては医学の基礎となる「細胞の構造と機能」・「細胞分裂と染色体遺伝学」・「遺伝子の構造と機能」・「遺伝と遺伝病」、さらには基礎と臨床の接点として「がんの基礎」を学び理解する講義である。医学部専門講義の1つとして、基礎知識・思考能力を身に付ける。		
授業方法(学習指導法)	講義		
授業到達目標	「細胞の構造と機能」、「細胞分裂と染色体遺伝学」、「遺伝子の構造と機能」、「遺伝と遺伝病」、「がんの基礎」について基礎的な事項を説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	総論、Human Biology第3章(永山)	
	2	Human Biology第3章(永山)	
	3	Human Biology第3章(永山)	
	4	Human Biology第18章(李)	
	5	予備	
	6	Human Biology第18章(李)	
	7	中間試験	
	8	Human Biology第21章(永山)	
	9	Human Biology第21章(永山)	
	10	Human Biology第21章(永山)	
	11	Human Biology第20章(李)	
	12	Human Biology第20章(李)	

	13	Human Biology第19章(吉浦)
	14	Human Biology第19章(吉浦)
	15	中間試験
	16	予備
キーワード	細胞、DNA、染色体、遺伝、遺伝子、がん	
教科書・教材・参考書	Human Biology (McGraw-Hill Int Ed)、12版	
成績評価の方法・基準等	出席2/3以上が必要。 中間試験2回平均60/100点以上で合格、30点未満で不合格。30～60点は再試験を行い、60点以上で合格。	
受講要件（履修条件）	原則すべての講義に出席できること。	
本科目の位置づけ	医学科での専門講義の入門に当たる。	
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**医学部医学科**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20132016000501	科目番号	20160005
授業科目名	●医学は長崎から		
編集担当教員	小路 武彦		
授業担当教員名(科目責任者)	小路 武彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小路 武彦		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生 (クラス等)	1年前期		
担当教員Eメールアドレス	tkoji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	解剖学第三 (医学部基礎棟2F)		
担当教員TEL	095-819-7027		
担当教員オフィスアワー	火曜日 10:30~12:00		
授業のねらい	<p>江戸時代、医学を志す全国の若者はこの長崎でケンペル、ツェンペリー、シーボルト、ポンペのようなヨーロッパの医学者や中国の医学者と出会い、最新の西洋医学と中国医学を学び、日本の医学の発展に寄与しました。</p> <p>「医学は長崎から」は、その事実を学び、次の2つの目的を実現するために設けられました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未来の医学を開拓する夢と気概を育む。 ヒポクラテスの箴言に医師は「過去を調べ、現在を判断し、未来を予見すべし」とある。日本の近代医学は長崎で誕生し、全国へと波及したという歴史認識を新たに講義と、現在の医学から将来を予見する講義を聞いて未来の医学はこの長崎から発展させるという夢と気概を育んで頂く。</li> <li>2. 医学の偉人に学問の進め方を学ぶ。 論語には「故きを温ねて新しきを知れば以て師となるべし」とある。先人の業績を調べて既成の概念を熟知し、それを打ち破るべく研究して新しい知識を創造することができれば人の師となれるという意味である。医学を開拓した先達の考え方や生き方を学び学問の進め方や難問への対処の仕方を身につけて頂く。</li> </ol>		
授業方法 (学習指導法)	板書、液晶プロジェクター等による講義を行う。必要に応じてプリントを配布する。		
授業到達目標	近代医学の導入と発展に貢献した代表的な人々の具体的業績と長崎との関連について説明出来るようになる事。		
	A. 長崎から興った日本の近代医学 B. 医学の偉人の学問の進め方 C. 医学の現在と未来		
	回	内容	
	1	科学史哲学 (防災科学技術研究所: 石井利和)	
	2	ツェンペリー、シーボルトとモーニッケの医学と博物学 (長崎原爆病院: 相川忠臣)	
	3	南蛮医学と紅毛医学: ルイス デアルメイダ カスパル シャンベルゲル ケンペル (ヴォ	

授業内容		ルフガング ミヒェル)	
	4	養生所と日本の近代医学：ポンペ、ボードイン、マンズフェルト、松本良順、長与専齋（長崎原爆病院：相川忠臣）	
	5	長崎のくすり：出島のくすり、薬草園、ビュルガー、シーボルトを中心に長崎のくすりを紹介する（長崎国際大学：中島憲一郎）	
	6	映像にみる近代長崎医学史：シーボルトの再渡来、ポンペの肖像、ボードイン・マンズフェルトコレクション等の古写真から近代長崎の医学史をみる（姫野順一）	
	7	解剖学の偶然と必然：前野良沢、杉田玄白、ポンペ、レオナルド・ダ・ヴィンチ等を中心として（第三解剖：小路武彦）	
	8	長崎からはじまる感染症への挑戦：種痘、モーニッケ、榎林宗建、戦争と風土病研究所、グローバルCOE（第二内科：河野茂）	
	9	外科学・麻酔学の歴史と未来：榎林鎮山、華岡青洲、ポンペ、ボードイン、外科学の現在と未来（長崎市立病院機構：兼松隆之）	
	10	Beautiful Mind(脳学)：長崎大学の先達 石田昇、斉藤茂吉から学ぶこと（第二生理：篠原一之）	
	11	病理学・内科学：ウイルヒョウ、佐々木隆興、吉田富三（長崎市立病院成人病センター：田口尚）	
	12	ウイルス感染予防によるがん（ATL）制圧への道程（長崎大学長：片峰茂）	
	13	離島の医療：離島医療の歴史と現状、ウイルス学的に見た島の住民（離島・へき地医療：前田隆浩）	
	14	原爆から立ち上がる長崎医学：角尾晋、古屋野宏平、調来助、久松シソノ（核兵器廃絶研究センター：三根真理子）	
	15	長崎大学のお値段：歴史的考察（十八銀行：齋藤寛）	
	16		
	キーワード		
	教科書・教材・参考書	出島の科学、出島の医学（生協にあります。）	
成績評価の方法・基準等	筆記試験、レポート、出欠状況、授業態度などを総合して評価する。		
受講要件（履修条件）			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考（URL）			
備考（準備学習等）	日頃から「長崎蘭学」関係の書物に親しむ事。		



タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**医学部医学科**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20132016000401	科目番号	20160004
授業科目名	●原爆医学概論		
編集担当教員	高村 昇		
授業担当教員名(科目責任者)	高村 昇		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高村 昇		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生 (クラス等)	1年・前期		
担当教員Eメールアドレス	takamura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	国際保健医療福祉学研究分野 (原研国際)		
担当教員TEL	095-819-7170		
担当教員オフィスアワー	金曜日午後5時～6時		
授業のねらい	<p>本学には、原爆被爆者の調査研究機関である原爆後障害医療研究施設 (原研) という特色ある施設があります。本授業のねらいは、放射線被ばくによる健康影響の実態を学び、原爆被爆者、さらには世界のヒバクシャについての最新の知見に触れることにあります。そのために、まずは放射線、放射線被ばくについての基礎知識を整理し、原爆の実相、そして放射線被ばくによる急性影響と晩発性影響 (後障害) を、血液疾患や甲状腺疾患などを中心に学びます。さらには、昨年発生した福島第一原子力発電所の発生にあたって実際に長崎大学から医療支援にあたった医師による、事故対策の実際についての講義も予定しています。</p> <p>また、西洋哲学の始源である古代ギリシア哲学を取り上げ、人間存在と知のあり方をめぐって哲学的思考の基本を紹介します。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各教官による講義を中心に進めていくが、講義の終わりには随時質問を受け付けるので、積極的に質問すること。</p> <p>また、最終講義時にはまとめと質疑の時間を別途設けるものとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射線についての基礎的事項について、概説することができる。</li> <li>2. 放射線被ばくについて、外部被ばく・内部被ばくの特徴を述べることができる。</li> <li>3. 放射線の医療への応用について概説することができる。</li> <li>4. 原爆被爆者の健康影響について概説することができる。</li> <li>5. 西洋哲学の始源である古代ギリシア哲学の基本的思考を理解できる。</li> </ol>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：放射線とは？原爆医療とは？ (原研国際・高村)</li> <li>2. 医療と放射線：放射線の医療への応用、医療被ばく (原研国際・高村)</li> <li>3. 原爆と医師：永井隆はじめ原爆医療の先駆者 (原研医療・山下)</li> <li>4. 原爆被爆者医療 (1)：被爆者の健康管理 (原研情報・三根)</li> <li>5. 原爆被爆者医療 (2)：被爆者腫瘍の病理疫学 (原研病理・中島)</li> <li>6. 原爆被爆者医療 (3)：原爆の造血に対する影響 (原研内科・宮崎)</li> <li>7. 核兵器の非人道性 (1)：国際人道法と核兵器 (RECNA・広瀬)</li> <li>8. 核兵器の非人道性 (2)：核兵器の非人道性をめぐる国際的な動向 (RECNA・中村)</li> <li>9. 放射線事故対策(1)：緊急被ばく医療 (国際ヒバクシャ医療センター・宇佐)</li> </ol>		

	10. 放射線事故対策(2)：チェルノブイリから福島へ（原研国際・高村） 11. 放射線事故対策(3)：福島原子力発電所事故対応（福島県立医科大学・大津留） 12. まとめ：講義まとめ、質疑応答（原研国際・高村） 13. ギリシア哲学の誕生とその背景（環境科学部・吉田） 14. ギリシア哲学の核心——人間存在と知のあり方（環境科学部・吉田） 15. ギリシア哲学の拡がり——知の諸形態の展開（環境科学部・吉田）
キーワード	原爆 放射線 チェルノブイリ 福島 被ばく医療
教科書・教材・参考書	特に指定しない。必要に応じて、講義の際に資料を配布する。
成績評価の方法・基準等	テーマに従い、レポートを提出することによって評価を行う。
受講要件（履修条件）	
本科目の位置づけ	本科目は、医学部医学科の学部モジュールとして、これから長崎大学で医学を学ぶ学生諸君に原爆投下に際して身を挺して献身的な被災者の救済にあたった先人たちの偉業に思いを馳せてもらうと同時に、今後ますます重要となってくる「被ばく医療学」の基礎を学ぶことが主眼である。
学習・教育目標	
備考（URL）	<a href="http://abomb.med.nagasaki-u.ac.jp/abdi/index.html">http://abomb.med.nagasaki-u.ac.jp/abdi/index.html</a>
備考（準備学習等）	事前に原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、永井隆記念館などを訪問して自己学習しておくこと。





タイトル「**2013年度シラバス**」、開講所属「**医学部医学科**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20132016000301	科目番号	20160003
授業科目名	●医学統計学		
編集担当教員	本多 正幸		
授業担当教員名(科目責任者)	本多 正幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	本多 正幸, 松本 武浩		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	医学部1年		
担当教員Eメールアドレス	m-honda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医療情報学		
担当教員TEL	095-819-7536		
担当教員オフィスアワー	16:30-17:30 月曜日		
授業のねらい	<p>医学統計特有の手法も存在するが、まず統計学の基本を理解することが肝要である。確率などの数学的な素養があることを前提とするが、1年次であることを考え基本的な概念、考え方を理解することを目標とし、高次学年や将来における医学研究の基礎力となる統計学の知識の習得を目指す。また、IT化の時代であり、コンピュータ演習を通して統計学およびデータ分析の基礎を学習する。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>講義形式と演習形式(医学部CBT室) 担当: 医療情報学: 本多正幸(1回目～5回目) 原研情報: 三根真理子(6, 7回目, 13～15回目) 原研情報: 近藤久義(8回目～12回目) ※なお、講義順、担当は変更する場合あり</p>		
授業到達目標	<p>以下の2点を到達目標とする。 1) 科学的方法における統計学の位置付けを理解し、記述統計学、確率分布の概念と代表的分布、母集団と標本における推測統計学などを中心に学習し、基礎的事項を説明できる。</p>		

	2) 医学データ、臨床データ等を用いた演習を通して、基礎的事項の理解を深め、データ見る目を養うとともに基本的なデータ解析ができる。
授業内容	統計学の基礎的事項を講義、演習を通して理解させる。講義は、原則プレゼンソフトにより行うが、参考書等に掲載されている医学論文掲載データ等を事例として紹介する。また、演習は各自PCを用いて、表計算ソフト、統計解析ソフトなどの実習を通して統計解析手法を体験する。
	回 内容
	1 オリエンテーション(目的・概要、研究デザイン(相対危険度とオッズ比))
	2 記述統計 I (平均、中央値、SD、SE)
	3 確率・確率分布 I (確率とベイズの定理、臨床判断学)
	4 確率・確率分布 II (正規分布と2項分布)
	5 記述統計 II (相関と回帰)
	6 演習 I (医学部CBT室)
	7 演習 II (医学部CBT室)
	8 母集団と標本(5回目までの補足を含む)
	9 推測統計 I (推定、区間推定、t分布)
	10 推測統計 II (仮説検定の概念、標本の大きさの計算)
	11 推測統計 III (1標本検定と2標本検定)
	12 推測統計 IV (分割表検定、分散分析と多重比較)
	13 演習 III (医学部CBT室)
	14 演習 IV (医学部CBT室)
	15 まとめ
16	
キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書は特にしてしない。教材、資料等は授業中に配布する。また、下記の本を参考書として指定するが、特に購入する必要はない。また、別の参考書等は適宜紹介する。 (参考:「論文が読める! 早わかり統計学 - 臨床研究データを理解するためのエッセンス-」(第2版)、メディカル・サイエンス・インターナショナル)
成績評価の方法・基準等	定期考査60%、授業中の課題に対する取り組み状況20%、レポート20%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.